

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第2番 ハ短調 BWV773

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第2番 c moll BWV 773 楽譜	4
2. 装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「インヴェンション」第2番 c moll BWV 773 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	7
4. バッハ「インヴェンション」第2番 c moll BWV 773 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「インヴェンション」第2番 c moll BWV 773 コーダの楽曲分析と演奏法について	13
6. 楽譜に3～5のアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	15

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

この度、全 15 曲の PDF 書籍、それから You tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近コンクール課題において、小学 5, 6 年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019 年 3 月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける 17 世紀初頭から 18 世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から 300 年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたるチェンバロ (独: *Cembalo*, 伊: *clavicembalo*) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン (*clavecin*) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (*polyphony*) といいます。ポリフォニー (*polyphony*) の対義語としては、ホモフォニー (英語: *homophony*、独語もしくは仏語: *Homophonie*) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています 15 調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 2

Johann Sebastian Bach
BWV 773

The musical score for Johann Sebastian Bach's Invention No. 2, BWV 773, is presented in five systems. Each system consists of a treble and a bass staff. The key signature is B-flat major (two flats) and the time signature is 3/4. The score includes various musical notations such as notes, rests, and ornaments. Fingerings are indicated by numbers 1 through 5. The piece begins with a treble staff starting on a whole note and a bass staff with a whole rest. The subsequent systems contain complex melodic and harmonic passages with various fingerings and ornaments indicated. The score ends with a final cadence in the fifth system.

3. 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について

第 2 番は、2 つの展開部とコードから構成されています。第 I 展開部は、1～10 小節です。

まず、この曲の主題は以下となります。



この曲は、c moll (ハ短調) の曲ですが、4 小節目 4 拍目から Es dur(変ホ長調) に転調しています。でも、もっと厳密に言いますなら、主題そのものが c moll のフレーズから Es dur のフレーズに転じていると解釈出来ます。第 1 番同様に、7 度音程も意識して演奏下さい。

第 1 番は、主題と第一対旋律がモチーフとなって曲が構成されていましたが、第 2 番は、主題と 4 つの対旋律が順次組み合わされて構成されています。”厳格なカノン”という表現も当てはまると思います。

第一対旋律



第二対旋律



第三対旋律



第四対旋律

